

日本二十六聖人殉教記念ミサ

〴〵つくしみ深く御父のように、生きた殉教者に倣う

足元から福音を生きる努力を



2月7日(日) 14時から西坂公園で日本二十六聖人殉教記念ミサを行われ、高見三明大司教と司祭ら、人余の共同司式のもと、教区内から集まった司祭、修道者、信徒約1800人が共に祈った。教主、長崎南地区評議会担当。

ミサの説教で高見大司教は二人は生きている間にどういふふうに生きるか、それは私たちが常に問われていること」と語り、「私たちは自分の足元から、福音宣教というイエス様の福音を生きる努力をしないといけないように思われます。他の人に向かつて『神様の愛を生きなさい』と言う前に、自分がそのように生きる。そうすることが宣教の始まりではないでしょうか。自分の人生を意味のあるものとしているものは何か。それをこれから少し分かつていくように、二十六聖人の取り次ぎに

よってその愛の精神を生きることが
できるように、そしてそれを「証し」
として変えていくことができるよう
に」と祈りを呼び掛けた。共同祈願
では、教皇、司祭・修道者とそれを目
指す人たちのため、世界中の苦しん
でいる人たちのために祈るととも
に、いつくしみの特別聖年を過ごす
私たちが二十六聖人に倣い、御父の
いつくしみを生きて証ししていくこ
とができるようにと唱えられた。

参加者からは、「1時間くらい
道のりに過ぎませんが、二十六聖人
のことを思いながら歩きました。足
が動くうちは毎年西坂まで歩きたい
です」「年々参加者の減少を感じま
す。日本二十六聖人は日本の宝なの
で、殉教祭を長崎教区だけで考える
のではなく日本の教会のこととして
考えてもいいのではないか」といっ
た声も聞かれた。

友の会設立

7日の殉教記念ミサ後、16時からは同記念館で、「日本二十六聖人『長崎への道』巡礼友の会」設立総会が行われた。同会は事務局を記念館内に置き、デ・ルカ・レンゾ師（記念館館長）を代表に、また京都から長崎までの道を徒歩で巡礼する集い「長崎への道（通称・ナガミチ）」の創立者田周司さん（大阪・吹名譽顧問として、あわ

1月31日(日) 第3回
教区シノドス提言推進会
議が大同教館で開催され
た。前回、「神のいつく
しみを共に生き、伝える」
という目標と、この目標
を説明・具体化するため
に、①「聖書と秘跡に生
かされた共同体づくり」、
②「神のいつくしみを生
きる共同体づくり」を取
り入れていくことが決
まったが、引き続き基本
計画と優先課題について
審議された。

まず、中央委員会から
前述の①②を目標達成の
ための取り組みとするこ
とと、公式提言の中で言
及されている「小共同
体」づくりの推進と「み
ぜりこるぢあ長崎」(仮

相次ぎ、どのようなカテ
キスタが養成されるべき
かについて、また生涯に
わたって教えを学ぶこと
の大切さについて議論を
深めた。

基本計画と優先課題を承認

第3回教区シノドス提言推進会議

審議の結果、「目標」
「目標達成のための取り
組み」「取り組みの検証」
からなる基本計画、カテ
キスタの養成理念と方法
を検討する専門チームの

立ち上げ、「カテキス学生会」創設に向けた交流会や研修会の実施を明記した優先課題が承認された。また、シノドス公式提言の各項目の実施主体を示した『教区シノドス提言振り分け表』に若干の修正が加えられた。基本計画と優先課題が承認されたことにより、今後はより具体的な推進計画に着手することになる。

第4回会議は3月20日（日）に開催されることになっている。

人・自然・神をつなぐ食

食の力——新たな家庭の靈性を求めて



ぐ食
性を求めて
「食の力——新たな家庭の靈性を求めて」を開催した。突然の大雪で交通機関もほぼマヒ状態の中、約50人が歩いて会場に集まった。

区家庭委員会は
カトリックセン
ターで講演会
「食の力——新たな家庭の靈性を求めて」を開催した。突然の大雪で交通機関もほぼマヒ状態の中、約50人が歩いて会場に集まった。

の食卓なのです。食は生への定感につながるのです」と語り多くの現代人の心の闇には、家族で食べる食の力が大きな鍵なることをさまざまな例をもて力説。そして、「カトリックは食の宗教です。イエスはよき食事をしています。救いの儀

講師の伊藤幸史師（東京教区）は参加者をねぎらいながら、「命は大切だ」と何千回言われるより、「あなたが大切！」と心から言ってもらえたら「生きる力」が湧いてきます。子が親から無条件に世話を受けることは、ありのままの存在として大切にされていく体験となります。その根本的なお世話の一つが、日々

（ミサ）も食事です。現代は立の時代。食は人と人、人と然、神と人の関係性をつなぐ、あるのです」と述べ、カトリクの重要性和その使命にも目開かせた。

公演後のアンケートには、「中を歩いてきた甲斐があった」「食の宗教としての役割分かった」「多くの信者たちも聞かせたい」との声があった。

キリストにおいて一つ

第5回長崎キリスト教一致礼拝

キリストにおいて一つ

第5回長崎キリスト教一致礼拝

「主の力あるわざを、広く たちのために祈りをささげ
伝えるために招かれて」を た。

牧師と双方の
信徒約100
人が参加し、
お互いの兄弟

1925年に建てられ、長崎市の景観重要建造物に指定されている。礼拝後、参加者たちはレトロな教会内での茶話会に参加し、親睦を深めていた。



特別聖年の過ごし方

2015年度冬期司祭研修会

司祭研修会が大司教館で
2月8日(月)に行われ、「い
つくしみの特別聖年」を恵
み深い年とするため、多数
の司祭が参加した。

研修会は高見三明大司教の講演「いつくしみと司牧」から始まった。大司教は「教会の役目はすべての人に奉仕することであり、奉仕とは相手を幸せにすること」と語り、「福音の脈打つ心臓であるいつくしみが、すべての人の心と知性に届く



はない。だから司牧を『する側』『される側』ではなく、相互に関わり合うものとして捉えることが大切」だとした。

講演後は小グループに分かれ、司祭として特別聖年をどのように過ごすかを分かち合った。その内容は午後の全体会で発表され、意見を共有した。最後に教区シノドス提言推進会議中央委員会から、提言推進の基本計画と優先課題（右下開みを参照）が説明された。

同日、申し込んだ教区司祭を対象に、生活習慣病予防健診も行われた。

平和メッセージを知る

相手のために時間を割くことから

2月11日（木）カトリックセ
ンターで、教皇の世界平和の日
（1月1日）メッセージを知る
ことを目的に、解説とコンサー
トを合わせた集いが今年も行わ
れ、300人余が参加した。教
区平和推進委員会主催。

時間を開くということがメッセーじの出発点だと話した。続いて、昨年沖縄平和学習に参加した高校生らによる報告。また、純心中・南山小コーラス部の合唱、急きよ出演したイエズス会のアントニオ・

ガルシア修道士らの歌声も会場を沸かせた。初めて参加した女性信徒(西町教会)は、「平和に向けた取り組みや現状をもっと知らないといけないと



精道学園とオプス・デイ

オプス・デイ司祭 尾崎 明夫

オプス・デイとは

長崎市の三川町と三原町にある精道学園は、オプス・デイ属人区のメンバーが中心となって建てられた学校です。オプス・デイとは1928年にホセマリア・エスクリバー神父(2002年に列聖)が創立したカトリック教会の組織で、1982年から属人区になりました。その教えの核心は、師の著書の次の言葉にあります。「自らを聖化する義務がある。そう、あなたにも。聖化は司祭や修道者だけの仕事だと誰が考えるのだろうか。例外なくすべての人に主は言われた。『あなたがたの天の父が完全であるように、あなたたちも完全になりなさい』(『道』291)。

この教えは後に第2バチカン公会議で宣言されます。洗礼によって、人は「神の養子、聖なる者」になります。それゆえ、世俗に留まりながら、つまり身分や職業を変えることなくしに聖人になることもできるということです。でもどのように？「本気で聖人になりたいのか。各瞬間の小さな義務を果たしなさい」(『道』815)。この義務とは、信者としての、家族の一員としての、社会人としての義務です。つまり、聖人になるとはよい信者、よい職業人、よい父親、よい母親、よい子供になることと努めることです。そうするならば、各人の欠点や失敗にもかかわらず、自ずと周囲の人々によい影響を与え、地の塩、世の光となるのが可能になります。

学校の設立

オプス・デイは司祭と信徒からなります。メンバーの大部分が家庭を持っていますが、独身を通して他のメンバーの養成に当たる者もあり、その中には司祭になる者もいます。このように生活形態は異なりますが、皆、社会一般の職業に従事し、それを聖化の手段として聖性と使徒職に励む義務を持っています。時に、メンバーが志を同じくする他の人々と一緒に教育や福祉活動をするために法人を作り、学校や病院を経営することもあります。長崎の学校もその一例です。

オプス・デイが日本で活動を開始した

のは、当時大阪大司教の田口芳五郎枢機卿様のお招きで、きつかけです。

1958年、最初のメンバーが大阪に到着し活動を始め、現在では京都、長崎、大分にセンターがあり、しを受けて、1975年に使徒職活動を始めました。1978年、三原町で長崎精道小学校が開校。4年後に三川町で男子校が始まり、1983年には三川女子調理師学校を設立。翌年男女両校の中学校が開校。2009年に男子校は高等学校を開校して現在に至っています。男子校と女子校は、場所も教職員も活動も別の学校です。司祭は両校の指導に当たり、ミサや赦しの秘跡、宗教の授業などを受け持ちます。別学教育により、男子女子の特性に応じた教育環境を提供することで、学習指導や生活指導の効果が高まることを経験しています。

建学の精神

学校の創立の精神は、カトリックの理念に従って、全人格的な教育を促し、真の幸せを知り、味わい、そしてその幸せを周りに広げることのできる人間の育成を行うことです。校訓として「自由と責任」と「ボッス・ムス」という言葉を掲げています。

2つとも聖ホセマリアが強調したものです。前者は、自由を責任をもって行使でき、正当な他人の自由を尊重できる人間を育てたいということを表しています。後者は、聖書の言葉で、ラテン語で「私たちはできません」という意味です。1人ではできなくても、神の恩恵と仲間の助けに信頼して、困難を前にしてもひるまず挑戦する人間を目指していることを表します。

独特の制度としては、個人指導制があります。これは児童生徒一人一人に個人指導教師が付き、頻繁に児童生徒と話し、彼らをサポートするということです。基本的に担任は毎年替わりますが、個人指導教師は3年間、あるいは6年間変わらず、卒業後にも付き合っていくことが珍しくありません。教会によれば、両親が子供の教育の第一の責任者です(第2バチカン公会議「キリスト教的教育に

関する宣言」3)。聖ホセマリアは、学校で最も重要なのは保護者、次に教職員、最後に生徒がくると強調しました。これは生徒を軽視することではありません。学校は子供の第一の教育者である両親を支援する立場にあり、両者の相互理解がなければ教育は困難だという考えです。それゆえ、保護者との連絡を密に取るよう努めています。男子校では夏のキャンプや研修合宿などの行事には学級担任や個人指導教師と父親が参加します。女子校では、母親のための勉強会やコーラス、運動などの各種クラブの開催、父親主体の「ファミリーズクラブ」による親子バーベキュー大会などがあります。いずれも子供の教育のために共に協力し、連携を深める好機となっています。

宗教教育

教育は全人格に及びます。人格形成の中で「自らの義務をきちんと果たす」という点は中心的な位置を占めています。教職員は、教師としての職員としての仕事をプロフェッショナルの精神をもって果たし、児童生徒はまじめに勉強をするというのが学校のあり方とされています。児童生徒はそれによって、将来いかなる仕事についても一人前の職業人になる基盤が身につくでしょう。

新たな心で行動を

「奉獻生活の年」閉年ミサ



2014年11月30日から始まった「奉獻生活の年」の閉年ミサが、主の奉獻の祝日である2月2日(火)19時から滑石教会で、高見三司大司教様主司式により、奉獻生活

りません。しかし、できるだけ多くの人が神を知り、神に祈ることを大切にしよう願ひ、宗教教育に力を入れていきます。なぜなら宗教は、人格の完成の重要な部分を占めていると考えるからです。神を信じ、その教えを学ぶなら、まじめに義務を果たし、周囲の人々への奉仕の気持ちを持つ良い国民になるでしょう。

毎朝学校に到着するときと授業が終わって帰宅するとき、生徒たちは聖堂に立ち寄り聖櫃にあいさつします。また小学校と中学校ではお昼に「お告げの祈り」(復活節にはアレルヤの祈り)を唱えます。

小中学校では週に1回の宗教の授業があり、神様について、祈りや秘跡について、また旧約と新約の救いの歴史を勉強します。小学校高学年では命と性について細やかに学習します。また2週間に1度ミサと赦しの秘跡があります。中学や高校では学年ごとに、定期的に朝に聖堂で10分ほどの説教があります。中学や高校から入学してくる生徒には要理を説明する時間を設けています。中学と高校では、哲学や倫理、社会教説についても学びます。

信者でない子が宗教に興味を示すことも珍しくありません。休み時間や給食のときに、先生に神学の問題を投げ

かける子供もいます。ある小学生が宗教の授業で原罪の説明を聞いた後、「先生、もしエバが差し出した木の実をアダムが食べなくても、やはり原罪は伝わったのですか」という質問をし、先生からその質問を尋ねられた司祭が「神学大全」を引いて答えを見つけたという事件もありました。

宗教的形成の手段

前述のように、子供の第一の教育者は保護者です。それゆえ、保護者にも本校での宗教教育を理解をもっていたように努めています。また、子供たちが祈ったりするのを見て、宗教に興味を持ち始める保護者もあられます。そのような場合、司祭や信徒である教師が個人的に要理を説明したり、大人向けのカトリック入門や聖書のクラスや黙想会などへの参加を呼びかけたりしています。

またカトリックの教えに興味を示す児童生徒には要理のクラスを個人的にするように努めています。その結果、神様の恵みによって、子供や保護者や教職員の間に回心や洗礼が生まれることは、少子化をはじめさまざまな困難の中で大きな慰めとなっています。

福音化の使命を忠実に

純心聖母会の終生誓願式



2月11日(木)、終生誓願式が純心聖母会本部聖堂で行われた。高見三司大司教と約50人の司祭団による共同司式ミサの中で、3人が終生誓願を宣立した。感謝と喜びのうちに表明された生涯にわたる奉獻の決意を、会員や家族をはじめ多くの参列者が祈りのうちに見守った。高見大司教は説教で、純心聖母会の創立者であ

新たにいたしました。滑石小教区評議会 議長 鈴木 博

る早坂久之助司教の力、マ「与え」について言及し、「苦

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網

エテルナ・ワコー(株)

代表取締役 ミカエル 溝口 晃
〒858-0926 佐世保市大湊町586
TEL(0956)47-4380

マイホームの美容と健康に！

(有) 山 川 塗 装

有限責任中間法人 全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事

代表取締役 ベトロ 山川 進
佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330 FAX(0956)49-8729

ご先祖に心より感謝を・・・

材石 治 明

長崎本店 長崎市城栄町 13-1 電話 (095) 846-3598
大 村 店 大村市民霊園内 電話 (0957) 50-3008

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は

メモリアル・典 礼 会 館 ・ 中 央 斎 場

長崎・諫早・大村・佐世保

株式会社メモリアル 事務局 ベトロ 田川慶司
0120-44-6666

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社 西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 剛
本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL (0956) 31-8268

主の平安

株式会社 五島式典社(斎場) 五島中央会館 奈留会館

代表取締役 ヨゼフ 浦 昭

24時間営業

五島市上大津町 1385 番地 1 TEL (0959) 74-5551
FAX (0959) 74-5552
五島市奈留町浦 1899-1 TEL (0959) 64-3101
FAX (0959) 64-3102

召されたときのことを
思い起こしてみなさい

(1コリ1:26)

2016年に叙階の節目を迎える司祭は、60周年(ダイヤモンド祝)は20人、50周年(金祝)34人、25周年(銀祝)19人。長崎教区内では次の方々。

ダイヤモンド祝

がそこにとどまり、1956年司祭に叙階されました。

神様に、家族に、そしてすべての人に

ペトロ 佐藤哲夫神父



3女3男の5番目として生まれました。原爆投下の3カ月後、姉と共に北海道のトラピストに渡り、姉を送るだけのはず

金祝

ゆるしの秘跡を通して奉仕できたら

ヨゼフ 萩原 勁神父



司祭の誕生の背景に、近年少し気付き始めたばかりです。それは筆舌に尽くしがたいものです。司祭叙階の日から、50年の歳月の間に受けた支えに万感の思いを込めて感謝いたします。例えば、感謝の心の足りない歳月でありました。残されている日々、神様と皆様、感謝の日々になるように心がけます。

ありがたく思うこと

族に与えた影響は大きかったと思います。同じようにトラピストに行った姉たち。私が子ども

司祭叙階を前にして

パウロ 山内啓輔助祭



「神学校の体験入学に行ってみるか」と、今は大阪教区の大司教様となられた前田万葉神父様(当時)に言われたのが、私の召命の始まりでした。その時、本当は断り

持浦主任、76年深堀主任、79年仲知主任、88年水ノ浦主任、95年黒崎主任、98年三ツ山主任。2005年引退、大司教館へ。

銀祝

導かれて、今、ここに

パウロ 鍋内正志神父



導くというより、導か

今が一番苦しい

ヨハネ 山村憲一神父



気がついたら司祭に

なっている。25年たちまち。振り返って思うことは、今が一番苦しいと感じてきたことです。でも、今が過去となった時、残るのは喜びの記憶です。きつと私に関わってくださった人々を通して、神様の恵みをいただいたからだと感じています。こ

祈りやさまざまな形でご支援くださったすべての皆様、心より感謝申し上げます。これからも私が良き牧者、イエス・キリストに倣う者となること、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

略歴 1986年11月26日生まれ。田平教会出身。

99年長崎南山中学校入学、2002年長崎南山高等学校入学、05年長崎大学教育学部入学、09年日本カトリック神学院入学。15年3月1日浦上教会で助祭叙階。

10日北九州市生まれ。戸畑教会で受洗、福江教会出身。

略歴 1964年1月10日生まれ。浦上教会出身。91年3月19日浦上教会で司祭叙階。同年中町小教区助任、94年カナダ留学、96年大浦助任、97年浜串主任、2004年教区本部事務局小共同推進室長(05年10月)・長崎コレジオ、05年八幡町主任、15年平戸口主任。

略歴 1964年7月27日生まれ。鮑の

略歴 1964年7月27日生まれ。鮑の

叙階式・選任式のお知らせ
叙階式 3月13日(日) 15時 浦上教会
司祭叙階受階者 パウロ 山内啓輔 (田平)
助祭叙階受階者 ペトロ 下原和希(土井ノ浦)
選任式 3月10日(木) 13時 浦上教会
祭壇奉仕者受任者 ヨゼフ キム・ボム (テグ教区・シンピョン)
朗読奉仕者受任者 ドミニコ 宮原大地 (桐)

2016年度
聖書講座・信仰養成講座のご案内
教区生涯養成委員会

- ◆場所 カトリックセンター2階講堂
- ◆受講料 聖書講座 13,000円 信仰養成講座 16,000円 *聴講もできます(1回1,000円)
- ◆申込期間 2016年3月22日(火)~4月22日(金)
- ◆申込先 〒852-8113 長崎市上野町10-34 生涯養成委員会
Tel095-841-7731 Fax095-841-7732

聖書講座(木曜日 19:00~20:30)

月日	講師	内容	月日	講師	内容
4月21日	高見三明大司教	概論	9月8日	山口竜太郎師	アモス
28日	川口昭人師	イザヤ	18日	山下 敦師	公開講座
5月12日	岩下和樹師	エレミヤ	10月6日	岡 秋美師	ヨエル ヨナ
19日	中濱敬司師	エゼキエル	13日	山添克明師	ミカ
26日	川口昭人師	イザヤ	20日	岩下裕志師	オバデヤ ナホム
6月9日	高見三明大司教	公開講座	11月10日	下岸英知師	ハバクク ハガイ
16日	岩下和樹師	エレミヤ	17日	中野健一郎師	ゼファニヤ マラキ
23日	中濱敬司師	エゼキエル	24日	谷脇誠一郎師	ゼカリヤ
7月7日	川口昭人師	イザヤ			
14日	岩下和樹師	エレミヤ			
21日	中濱敬司師	エゼキエル			
9月1日	野濱達也師	ホセア			

【テーマ】 預言書 【テキスト】 聖書
【公開講座】
・聴講料 前売券 800円 当日券 1,000円

信仰養成講座・B年度(土曜日 19:00~20:30)

月日	科目	講師	月日	科目	講師
4月23日	秘跡による救いの営み	岩本繁幸師	10月8日	人間共同体 (個人と社会・社会生活・社会正義)	紙崎新一師
5月7日	秘跡による救いの営み	岩本繁幸師	15日	自然法と教会法 (道徳法・恵みと義化・教会の掟)	谷脇誠一郎師
14日	キリスト教入信の秘跡① (洗礼・堅信)	川端志範師	22日	神の十戒① (1~3)	眞浦健吾師
21日	キリスト教入信の秘跡② (エウカリスチア〔聖体〕)	尾崎明夫師	12月3日	神の十戒② (4~10)	大水 満師
28日	キリスト教入信の秘跡② (エウカリスチア〔聖体〕)	尾崎明夫師	10日	キリスト教的生活の中での祈り (祈りの啓示・伝承・生活)	松村信也師
6月4日	いやししの秘跡 (ゆるし・病者の塗油)	稲田伸也師	1月7日	主の祈り	中濱敬司師
11日	いやししの秘跡 (ゆるし・病者の塗油)	稲田伸也師	21日	要理教育実習	Sr. 木村百恵
18日	交わりをはぐくむための秘跡 (叙階・結婚)	下岸英知師	28日	要理教師二級資格授与式	
25日	交わりをはぐくむための秘跡 (叙階・結婚)	下岸英知師	2月4日		
7月2日	他の典礼儀式	平本義和師	18日		
9日	人間の尊厳	井田 明師	3月5日		
10日	自由と倫理	熊谷裕司師			
17日	徳				
10月1日	罪				

【テーマ】 祝う・生きる・祈る 【テキスト】 カトリック教会のカテキズム

親子で育む信仰を

下五島と長崎南で合同堅信



光さん(中学2年・福江)が受

堅者を代表して、「たくさんのお祈りと励ましのおかげをいただくことができた。これからは周りの人に役立てたい」と感謝の言葉を伝えた。保護者を代表して濱村初好さん(浜脇)は、「いつくしみの特別聖年で、いつくしみについて真剣に考えている。親子で信仰を育んでいくことを怠らない」と誓った。参加者一同、キリストの証人として生きる思いを新たにすることができた。

大槌ベースボランティア募集

●4月14日(木) 20日(水) (3/16締切)
●5月12日(木) 18日(水) (4/13締切)
●6月9日(木) 15日(水) (5/11締切)

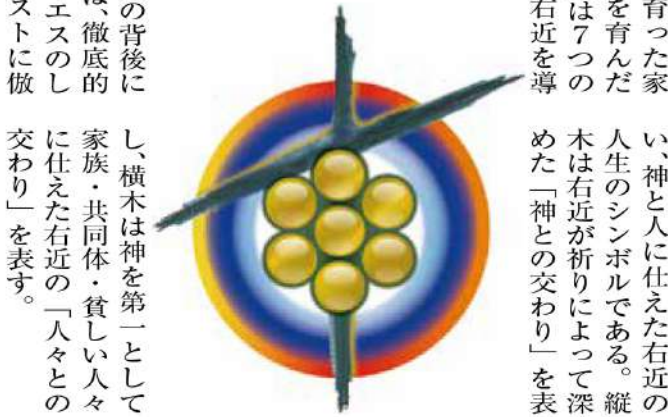
申し込みは所属小教区へ。問い合わせは教区本部事務局(松尾)まで。

TEL 095・842・4450
FAX 095・842・4460

福者ユスト高山右近 列聖運動シンボルマーク決定

福者ユスト高山右近の列聖式に先立ち、日本カトリック司教協議会列聖推進委員会(大塚喜直委員長)は2月10日、列聖運動のシンボルマークを発表した。

制作者は、師イエズス修道会の北爪悦子修道士。このシンボルマークは、右近の列聖運動にかかわる企画・催し・印刷物などに幅広く使用される。同マークは、十字架に高山家の家紋である七曜星を重ね、その背後に3つの輪が配されている。



十字架 七曜星の背後に貫かれた十字架は、徹底的に降りて仕えたイエスのしるしであり、キリストに倣うし、横木は神を第一として家族・共同体・貧しい人々に仕えた右近の「人々との交わり」を表す。

1月17日(日)、福江教会で下五島地区合同堅信式が行われた。6小教区から集まった信者たちの熱心な祈りの中、中学生18人、成人2人が式に臨んだ。

ミサの中で高見三司大司教は命の尊さに触れ、「神の似姿である私たちが、愛することが使命です。しかし、自分しか愛せない人になってはいけません」と説教し、大人の信者として、人を大切にする信仰を生き延びたいと激励した。



1月31日(日)、長崎南地区では初めてとなる合同堅信式が、高見大司教司式のもと中町教会で行われた。13小教区のうち7小教区から中学生22人と成人7人の計29人が、家族や代父母、教会代表者の見守る中で秘跡を授かった。

南地区では2年前から合同堅信式の準備を始め、合同黙想会などを企画してきた。受堅者数が

減少傾向にあるということだけでなく、小教区を超えてつながり合う教会共同体を意識してもらおうという積極的な狙いもある。毎年1月に実施予定だが、準備段階として、教会の教えを多角的に合同で学び合う、より充実したカテキズムを作成していくことが今後の課題となる。

フォコラーレの一日マリアポリ

1月31日(日)カトリックセンター講堂で、「限らない神様の愛に出会って」をテーマに一日マリアポリが行われました。アポリが行われました。黙想・経験・劇などを通してこのテーマを深め、また6つのグループに分かれて分かち合いの時間も持ちました。

参加者からは、「自分学生以下無料)。お求めは長崎北・中・南地区各教会にて。

3つの輪 七曜星と十字架の背後で輝く3つの輪は、三位一体の神と人々とのかわりの中で、揺るがない信仰へと導かれ、広がっていった右近の生涯を示す。

輪の内側からの水色と濃い青は右近の聖性の深まりを、外側の朱色は右近の深い祈りと、いのちをささげるまでのキリストへの燃える愛を表す。400年前の日本の教会に「世の光」として誕生した右近の輝きは、今日の私たちを照らしている。

感謝

― 香典返し ―

- 長崎大司教区
- 匿名様
- 長崎カトリック神学院
- 坂本家様 (出津)
- 故マリア坂本テイチ子様
- 高谷家様 (黒崎)
- 故トマ高谷義幸様

右の方々からご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

長崎の教会群インフォメーションセンターニュース (第5号)

大波止ターミナル2階に『世界遺産関連広報スペース』オープン

長崎市大波止のフェリーターミナル2階に「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」についての広報スペースを開設しました。

「明治日本の近代化遺産」関係の解説も展示してあります。お気軽にお立ち寄りください。

主の平安 カトリック式葬祭・飾付一式

(有) 栄光式典社

代表取締役 ヨハネ 西村 勇二

長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011
24時間営業 FAX(095)843-9896

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付 白蟻防除施工士

大田白蟻研究所

代表者 マリア 大島 睦子

(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号
長崎 095-822-8436
FAX 095-822-8488

水浦運送

シモン 水浦 幹雄

長崎市上野町12-3
TEL(095)847-7151
844-1420

なが さき せき ちょう

長崎石彫

ヨゼフ 岩永 博明

☎(095)862-2469
長崎市梁川町6-17 岩永ビル